

令和1年度 事業報告

1. 福祉サービスの実施状況について

- ① 「利用者が障がいを抱えながらも、日々安心や楽しみ・希望を感じられるよう」利用者本位のサービス提供と施設運営に努めた。
- ② 平成28年11月より休止していた「ピアつばめ生活訓練事業」を令和1年7月より再開した。再びサービスの種類が増え、より幅広い利用者ニーズに応えられるようになった。
- ③ 結果として、利用者数・利用頻度の増加となった。平均利用者数の推移は下表の通り。

◆障がい福祉サービス事業所の一日常平均利用者数

事業所名	事業種別	H29年度	H30年度	R1年度
原作業所	B型	15.0	14.9	15.7
ピアつばめ	B型	14.3	15.9	16.6
	生活訓練	—	—	2.9
オアシス	B型	10.5	9.2	8.7
合計		39.8	40.0	43.9

◆地域活動支援センター I 型の一日常平均利用者数

		H29年度	H30年度	R1年度
ぷらっと	来所	33.8	31.6	32.2
	電話相談	17.4	18.3	24.6
	登録者(年間)	121	145	149

2. 令和1年度の主な収支結果

	平成30年度実績	令和1年度実績	前年比
サービス活動収益合計	151,905,059	153,160,405	100.8
当期活動増減差額金	810,060	8,623,063	1064.5
	(収入比0.5%)	(収入比5.6%)	
当期末繰越活動増減差額金	79,748,650	88,371,713	110.8

- ① サービス活動収益合計額は、前年比100.8%の実績となった。
- ② 当期活動増減差額は、収入比5.6%を確保した。
- ③ 当期末繰越活動増減差額は、前年比110.8%となった。

3. 職員体制

① 令和1年度中に、常勤職員2名、非常勤職員2名の退職があった。

② 令和1年度中に、非常勤職員2名採用。

令和2年度開始時に常勤職員1名採用、非常勤1名を常勤へ転換。

職員数は1名減となったが、1名を非常勤から常勤へと転換した為、常勤換算数は前年度とほぼ同数となり、サービス提供に必要な人員体制は確保できている。

4. 法人としての取組み

① 法人行事

- ・ 7/22に予定していたバスハイクは、大雨による避難勧告が出たため中止とした。
- ・ 10/5 つばめ祭り開催（地域への感謝を伝え、交流を通して障がいの理解促進を図る）

② 機関紙SWALLOWの発行（4月、7月、10月、1月）

③ ぷらっと移転先について検討・情報収集・内覧を行った。（退去期限は令和9年3/31）

④ 2/1「ふくおか健康づくり団体・事業所宣言」に登録。（福岡県10724号）

【宣言内容】

「特定検診受診率80%を目指します！」

⑤ 2/10「福岡県子育て応援宣言企業・事業所」に登録。（福岡県第8193号）

【宣言内容】

「我が社は、従業員が出産・育児期を通して十分な子育てをしながら、引き続きその職務能力が発揮できるよう次の取り組みを行うことを宣言します。」

【取組内容】

- ・ 定期的な情報交換を行い休業中の不安を和らげるようコミュニケーションを図ります。
- ・ 配偶者が出産した際の男性の休暇取得を推進します。
- ・ 職員の希望により、養育する子が小学4年生の始期に達するまで時短勤務を認めます。

4. 今後の課題

① オアシスの採算化

2期連続で赤字の為、固定費の削減を行った。新規利用者獲得が課題。

② ぷらっと移転の準備を進める

良い物件があれば期限を待たず転居する為、情報収集と準備を進める。

③ 人材の育成と確保

主任・管理者を担える人材不足解消の為、即戦力の採用と、人材育成に取り組む。

④ 新規事業への取組み

ピアつばめ、原作業所に利用希望の問合せが定期的にあるが、定員に空きがなく受けれない状態が続いている。新たな受け皿を作る事は、地域の社会資源の充実を図ると同時に、法人の経営改善に資するものである為、チャレンジしていきたい。

就労支援事業報告

● 事業目標

- 1、メンバーの誰もが、元気になる場を目指す（「安心」「繋がり」「自信」「やりがい」）
- 2、メンバーと共に歩み、喜を分かち合う

● 事業報告

- 1、利用者が安心して過ごせる場の提供と、メンバー同士の繋がり、仕事を通して自信ややりがいを感じられるよう心掛け支援を行った。
- 2、メンバー間で仕事に対する意識や能力の差が大きい、それぞれのペースや希望に沿って無理なく仕事に取り組みながら、作業が回るよう、トラブルが起きないように調整を行った。
- 3、5名が卒業され、7名と新規契約を交わし、契約者は33名となった。
- 4、契約者数と利用頻度の増加により、報酬額も増加している。

(月平均/人)

通所人数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
H30年度	14.5	13.6	14.6	14.0	15.8	16.9	14.9	15.6	15.8	15.4	13.5	14.5	14.9
R1年度	16.5	15.0	15.1	15.5	13.3	16.2	17.0	15.5	16.0	15.4	16.8	15.5	15.7

授産への取り組み

● 活動報告

- ・ 「下請作業」と「自主製品の製作・販売・納品」を2本柱として取り組んだ。
- ・ 下請作業…「グリーンコープチラシ帳合」「ペロル作業」「行楽用品の袋詰め・シール貼り」「大原公民館清掃」「市政だより配布」「スタンプ押し」「チラシホチキス止め」
- 自主製品…「シフォンケーキ」「クッキー」「ジャム」
- ・ その日に何の仕事に従事するかはメンバーが主体的に選んだ。
- ・ 仕事の難易度や負担度に応じて付く工賃加算を、より実情に合った金額とした。
- ・ グリーンコープ帳合部数を週2,400部から3,000部に増やし、安定した収入が増えた。

● 今後の課題となった点

- ・ 自主製品製作販売の強化による職員の負担増。厨房の職員体制の再構築と効率化。
- ・ スタッフ間の情報共有の徹底。

その他

● 実習の受入

- ・ 麻生医療福祉専門学校、ILPお茶の水医療福祉専門学校、FCフチガミ医療福祉専門学校より各1名

● 年間行事の実施状況報告

- ・ いちご狩り、花見、茶話会、バスハイク、バーベキュー、買物（ニトリ・木の葉モール）カラオケ、ランチビュッフェ、クリスマス会、初詣、ぜんざい会、豆まき

● 会議、研修等

- ・ スタッフ会議、早良区医療福祉連絡会議、精福協定例会議、人権尊重推進協議会
凸凹ネット定例会議、凸凹ネット施設長会、地域生活支援協議会、ピアスタッフ交流会
リーダー研修、コミュニケーション研修、説明力研修、食品衛生講習会、就労支援研修
みんなの集い、ハートメディア

就労支援事業報告

● 事業目標と計画

- ・利用者への支援強化:障がい特性、症状に合わせた対応→通所ペースの向上
- ・支援体制の充実:職員体制の見直し、職場内・外研修受講による専門的知識の習得、見通しを持った行動
- ・就労支援体制の促進:就労に向けたステップアップ訓練の実施、就労アセスメント等の活用
- ・各機関との連携:早期の相談、会議の開催、本人の支援方針の情報共有
- ・地域、館内連携:舞鶴地区での行事参加、あいの館内でのイベント協賛および協力体制の強化

● 事業報告

- ・職員体制が変わり、順次役割分担の見直し・引き継ぎを行った。利用者面談等、徐々に各職員で対応するようになり特定職員への負担は減ったが、最終的な支援の方向性を定めていくには職員のスキルアップが必要。各職員の意欲は高く、研修受講など積極的に参加しており、今後現場で活用したい。
- ・昨年度同様、通所者数が伸び悩んだ。退所者が大幅に増えることはなかったが、契約利用者の通所停滞が続いている。体験希望はあるものの新規契約につながらず。
- ・地域行事や館内イベントに参加することができ、職員・利用者ともに外部との関わりを持つ機会となった。

喫茶・レストラン オアシス 通所者数 平均/目標

(人/日)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
H30年度 通所平均	10.5	10.6	10.7	9.2	8.4	8.3	9.3	8.5	8.5	8.2	8.7	9.0	9.2
H31年度 通所平均	9.5	9.3	9.2	8.8	8.7	9.0	8.8	9.4	8.5	7.5	8.0	8.3	8.8

授産事業報告

● 事業目標と計画

- 喫茶
- ・接客対応、スキルの向上:接客マナー訓練の実施、業務内容の見直し(細分化)
 - ・メニューの見直し:消費増税による価格および提供内容の改定
 - ・販路開拓の実施:ポスティングによる認知度向上、店舗情報の積極的な発信
 - ・利用者主体の店舗作り:店舗内やメニューに関する主体的展開
 - ・利用者訓練の強化:館内との連携による取り組みの導入

- 軽作業
- ・訓練機会の提供:能力や体調に合わせた取り組み、利用意識の向上
 - ・定期的な入出荷:期日厳守の的確な取り組みの充実、安定的な収入源の確保
 - ・作業バランスの見直し:複数作業の進行状況の確認・見極め

- 受付
- ・人員体制の充実:職員、利用者の人員確保と育成
 - ・認知度の強化:店舗情報の積極的な発信
 - ・利用者訓練の強化:主体性を持った取り組みの導入
 - ・新たな使用方法の模索:珈琲以外の商品の提供の検討

● 事業目標と計画

- 喫茶
- ・館内との連携により利用者の内線取次を開始。大きな混乱はなくスムーズに行えた。
 - ・10月より消費増税による価格および提供内容の改定を行った。利用者もそれに順応して取り組んでいる。
 - ・利用者主体でケーキ作りや仕込みなどを行ってもらい、良かった点、改善点を振り返るよう努めた。
- 作業
- ・下請け作業の依頼が不安定だったため、主に人工毛に限られた。利用者により能力が違うが、各自体調に合わせてペース配分しながら取り組むことを意識づけた。
- 受付
- ・利用者主体で取り組み3年が経ち、各自で責任感が生まれつつあるが、人員確保を優先したため、営業日は主に週末・祝日に限定して行うことが多く、認知度を高めることが難しかった。

その他

● 実習の受け入れ

- ・筑紫女学園大学(7～8月:1名)、麻生医療福祉専門学校(8～9月:1名)

● 職員研修、スタッフ会議

- ・スタッフ会議・定例会(毎月1回以上)
- ・就労支援連絡会(5、7、11、2月)
- ・福岡市精神保健福祉協議会(毎月第2土曜)
- ・精神保健福祉基礎研修(6月)
- ・障がい年金研修(6月)
- ・福岡市精神保健福祉センター運営協議会(8月)
- ・精神保健福祉従事者研修(9月)
- ・九州・沖縄公的扶助関連問題研究会(11月)
- ・アンガーマネジメント研修(12月)
- ・発達障がい研修(12月)
- ・地域生活定着支援協議会研修(1月)
- ・サービス管理責任者更新研修
- ・あいの館定例会(毎月第2木曜)
- ・あいの館(保護会館)防災・消防訓練
- ・福岡県精神保健福祉会連合会
- ・食品衛生責任者(管理者)研修(6月)
- ・相談支援初任者研修(7、8月)
- ・感染症予防研修(9月)
- ・ちゅうちゅうネット研修会(9月)
- ・サービス事業所交流会(11月)
- ・苦情解決従事者研修会(1月)
- ・筑紫女学園大学実習懇談会(2月)
- ・空き家シンポジウム(2月)

● その他行事、イベント

- ・花見(4月)
- ・精神保健家族講座(講師)(9月)
- ・難病サロン(喫茶開放)(9月)
- ・市民糖尿病教室(医師会コラボ)(11月)
- ・初詣(1月)
- ・舞鶴地区夏祭り(8月)
- ・暑気払い(8月)
- ・中央保健所健康フェア(協賛)(10月)
- ・クリスマス会(12月)
- ・みんなの集い/ハートメディア(2月)

就労支援事業報告

● 事業目標

1. 利用者と職員が本来の自分を発揮し、いきいきと過ごせる自由な雰囲気のある場を作る。
2. 利用者全員に十分目を行き届かせ、それぞれの事情に沿った個別の支援を強化する。
3. 作業工賃のアップを目指す。
4. 事業所として常に前を向き、小さくても何か新しいことに取り組む前進する姿勢を持つ。

● 事業報告

1. 現在定員は、B型14名、生活訓練6名としているが、年度平均はB型16.6名、生活訓練2.9人となった。にぎやかで活気のある毎日が過ごせている。登録者のほぼ全員が定期的に来所できており、それに伴って報酬額も増加している。
2. 昨年7月1日より生活訓練「そらいろ」が開所。作業訓練、休み時間などを通してB型との交流もあり、お互い協力、刺激し合いながら日々を送れている。
3. B型の見学、入所希望が多い。適度な作業のできる居場所としてのB型が求められていると感じる。
4. 個別の面談を定期的に行っている。日頃見えない悩み、困りごとなども見えてきて、個別の支援に力を入れていきたい。
5. 9月に阿蘇へピアつばめ独自の日帰り旅行を行う。バスツアーを利用して移動の安全を重視した。一年に一度の少し遠方への旅行は利用者の目標、励みとなっている。
6. 同じく9月にピアつばめ家族会を行う。年に一度の集いだが保護者との懇談、食事会を通して顔の見える関係が築けており、日頃の電話等でも近しく話をする事ができるようになった。高齢の保護者が多く、参加者は固定化している。

	ピアつばめ B型				来所者数				R2.3.31				
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
平成30年度	15.7	15.5	16.7	15.9	15.0	16.0	16.0	16.0	16.2	15.1	15.7	16.4	15.9
令和元年度	16.9	16.6	16.9	16	15.7	15.5	16.2	16.9	16.5	16.2	17.7	17.8	16.6

授産への取り組み

● 活動報告・課題

1. 作業はグリーンコープの帳合を主として、銀のさら箸セット作り、ねぎ加工、ペロル作業、ダイレクトメールなどの請負作業を中心に行っている。工賃には限界があるが、定期的に仕事をいただけるので安定した収入となっている。
2. 自主製品制作では、レジン作品、マスク作成を行った。誰かのためになっているという思いもあり、利用者の皆さんも作業を分担しながら心をこめて制作に取り組んだ。
3. 昨年度の工賃時給は120円で、なかなか伸びていかない。作業自体はとても忙しく、常に締切に追われているが、皆さんの頑張りに対して給料が比例していかない。自主製品開発に力を入れて、売れる商品を作り、販売につなげていきたい。
4. 工賃が安くても、皆さんのモチベーションは工賃だけにあるのではないことを、このコロナによる閉所期間に痛感した。みんなの居場所であり続けることを最も大事にしていきたい。

その他

● 実習の受入

麻生医療専門学校、B型事業所「雨あがりの虹」より

● 職員研修、スタッフ会議

相談支援専門員初任者研修、相談支援専門員現任者研修、食品衛生責任者養成研修会
SST指導者初任者研修、苦情解決従事者研修会、スタッフ会議(ケース会議、打ち合わせ等)

● 行事

イチゴ狩り、お花見、カラオケ、日帰り阿蘇旅行、カラオケ、ボウリング
ボーリング、博物館見学、焼き肉食事会、つばめまつり、健康まつり等
調理実習

R1年度 職員体制	常勤	非常勤	常勤換算
	3	2	4.2



自立訓練（生活訓練）事業報告

● 事業目標

1. 利用者と職員が本来の自分を発揮し、いきいきと過ごせる自由な雰囲気のある場を作る。
2. 2年（または3年）の訓練期間中に生活力や生活を楽しむ術を身に付けるためのプログラムを行う。
3. 利用者家族、計画相談事業所、他機関との連携を密にして各人のニーズをつかみ、個別の事情に沿った支援を強化する。
4. 事業所として常に前を向き、小さくても何か新しいことに取り組む前進する姿勢を持つ。

● 事業報告

1. 令和元年7月1日より2年半休止となっていた生活訓練を再開した。
名称を「そらいろ」とし、定員6名、有期限で2年間（または場合によって3年間）の通所とする。
7月で丸1年を迎えるが、少しずつではあるが、それぞれに成長が見える。
2. 外部の先生を委託してヨガ、書道、はがき絵、ビジネススキル講座を行う。先生方の理解も深く、利用者のよい刺激となっている。
3. 少人数の為、目が行き届き身近な距離での支援ができています。個々の変化にいち早く気づき、臨機応変な対応ができた。
4. 作業訓練、季節の行事などをB型の利用者と共に行うので、人の輪が広がり、ピアつばめの一体感が生まれた。B型のスタッフとも関わりが生まれて、多角度からの支援が可能となった。
5. 在籍期間が限りがあるので、その後の進路も今後は各自と面談しながら見据えていき、そのための生活スキルのアップを図っていききたい。

ピアつばめ そらいろ		来所者数		R2.3.31									
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
令和元年度	-	-	-	2.1	2.3	2.8	3.0	2.5	3.4	2.7	4.0	3.5	2.9

活動報告と課題

● 活動報告・課題

1. 現在登録6名で毎日2～3名の利用者が来所している。プログラムに参加できなくても、毎日通ってくることで安心感を得て、そらいろが居場所となっている。出かける場所があることで、利用者の生活のリズムができています。
2. 通所するのがやっとの利用者がほとんどで、プログラムになかなか集中できない。一番の課題は体力がない事で、どのプログラムもすぐに「疲れた」の声が上がる。外出行事に至っては、歩くのに疲れて、いたるところで座り込むことが多い。
何かに興味を持つこと、一定時間集中することが難しく、プログラムの企画運営にスタッフは頭を悩ませている。
3. 登録者数を10名程度に増やし、毎日の通所者を平均6名程度にしたい。運営面ではもとより全体の活気も各人のやる気も出てくることを期待したい。
4. 2年（または3年）という期限があるので、その後の進路も今後は各利用者と面談しながら見据えていきたい。各自の目標もつことが生活のモチベーションを上げることができるよう、支援を続けたい。

その他

● 実習、体験の受け入れ

麻生医療専門学校、
B型事業所雨あがりの虹

● 職員研修、スタッフ会議

相談支援専門員初任者研修、相談支援専門員現任者研修
食品衛生責任者養成研修会
SST指導者研修、苦情解決従事者研修会、虐待研修
スタッフ会議（ケース会議、打ち合わせ）

● 行事

イチゴ狩り、お花見、カラオケ、ボウリング、焼き肉食事会、
つばめまつり、保健所健康まつり、博物館美術館見学等



調理実習（お好み焼き）

R1年度 職員体制	常勤	非常勤	常勤換算
	1	1(B型との兼務)	1.1

施設名 西区第1障がい者基幹相談支援センター

相談支援 事業報告

新規相談分類

転居後の生活相談	9	計画相談について	12	釈放後の生活	1
住まいの相談	7	サービス利用	24	福祉用具	1
発達障害	13	GH空き情報	4		
今後の相談	7	支援者の対応に苦慮	2		
引きこもり	4	緊急時拠点の利用	2		
8050問題	4	不安の訴え	8		
介護保険	8	子の進路	5		
家族支援	4	退院後の生活	10		
障がい受容なし	4	事業所情報提供	1		
子育て問題	10	障がい疑い	1		

相談地区

姪浜	26	内浜	7
愛宕、愛宕浜	16	城の原	6
福重	12	能古	1
下山門	24	生の松原	4
上山門	1	西陵	1
小戸	11	その他	6
石丸	13		

相談者

本人	20	社協	6
家族	34	指定特定	9
行政	6	就労	3
地域包括	9	他基幹	4
ケアマネ	5	その他	6
学校	6		
医療	19		

【相談支援：新規、継続利用している障がい者等の人数】

	実人員	身体障害	重症心身障害	知的障害	精神障害	発達障害	高次脳機能障害	その他
障害者	211	42	5	29	97	18	3	17
障害児	12	0	0	2	2	5	0	3
計	223	42	5	31	99	23	3	20

【支援方法】

	訪問	来所相談	同行	電話相談	電子メール	個別支援会議	関係機関	その他	計
件数	286	43	87	489	39	35	687	71	1737

地域生活支援拠点等整備事業報告

*別紙参照

令和元年度 区部会活動報告（区ごとの障がい者基幹相談支援センターの取り組み）

	取り組みのねらい	主な取り組み内容	成果	課題・今後の取り組み
区ごとのネットワークの構築	・西区内事業所間で顔の見える関係の構築	・西サポネット →・実行委員会の実施（毎月） H31年度の研修会企画 R2年度ネットワークの検討 ・西サポネット研修会	・研修会参加希望者の増加（106名応募あり） ・訪問看護事業所のネットワーク参加	・サービス種別独自のネットワークがない。→【サービス種別でのネットワークの構築】ネットワークの細分化を図り、情報の共有や地域の課題にチームでの対応を行っていく。
区内の相談支援事業所のネットワークの構築，専門的な助言・人材育成	・相談支援専門員間の情報交換 ・相談支援専門員の息抜き ・相談支援専門員のボトムアップ	・西区相談あつまろう会（年2回） ・西区相談勉強会（年3回） →事例検討（2回） 緊急対応コーディネーターによる事例報告 ＊新型コロナウイルスの影響によりあつまろう会、勉強会、各1回中止	・緊急時の際、相談支援専門員との連携がスムーズに行うことができるように変化が見られた。	・相談支援専門員の専門性の向上 →【勉強会を中心とした西区相談あつまろう会の開催】今年度収集した、相談支援専門員が学習したい内容を主軸に取り入れ、講師を招き開催を行っていく。
区内の地域福祉の基盤づくり	・地域における基幹相談支援センターの周知 ・各専門の役割理解を深める。 ・連携を行い、役割の分担を行うことで、負担の軽減を図りスムーズな支援を行う。	・地域包括支援センターとの連携支援 ・ゆうゆうセンターとの勉強会 ・ペアレントメンターカフェの実施 ・特別支援教育連携協議会 ・ピアスタッフの啓発、活用 ・SSW情報交換 ・ひきこもり支援企画会議 ・圏域ケア連絡会 ・ペット問題共同事業に関する会議	・支援時における連携がスムーズになってきた。 ・互いの役割の認識を深め分担が行いやすくなった。 ・相談件数が増え、早期対応が可能になってきた。	・現行のサービスでは対応が難しいケースや内容がある。 →【多種相談窓口との連携を意識した支援の展開】各専門窓口では対応できないケース、相談内容に対し相談窓口間で連携・ネットワークを構築し、フォーマル、インフォーマルを超えた支援を展開していく。
区内での緊急時の対応に関する取り組み	・緊急時対応の理解を深める。	・西区相談あつまろう会 →緊急対応コーディネーターを講師に招いた勉強会 ・公民館長（姪浜・内浜）との緊急時設備について意見交換 ・緊急時のサービス調整	・緊急時の際、相談支援専門員との連携がスムーズに行うことができるように変化が見られた。	・事前登録が進まず、緊急事態が起こってからの相談がある。 →【緊急時を想定した支援の構築】関係者及び、関わりのあるケースを通じ支援の基本として、緊急時を意識した支援の構築を図る。 【行政機関との連携体制の構築】緊急時に活用できる関係性、および情報の交換を行っていく。

地域活動支援センター事業報告

● 事業目標

- ・地域で暮らす障がい者が、安心して過ごせる居場所作り、仲間と出会い交流をしたり、地域社会とつながる機会を持つことにより、地域で豊かな生活を送れるよう支援を行う。
- ・「人と人がつながり支え合う」ことを大切にし、利用者の孤独感を軽減し、楽しみや役割を見出せるよう支援を行う。
- ・職員の成長のため、研修会などに積極的参加し、学んでもらう。

● 事業報告

- ・利用者一人一人の障がい特性に配慮した見守りを行うために、職員の配置や時間割を設定してフリースペースに職員が常駐できるようにした。また、レイアウト変更により安心して面談できる場所を確保した。
- ・自由に個々の趣味を楽しんだり、気軽に楽しめるゲームやサークルを適宜行って他の利用者との交流を図った。
- ・地域ボランティアの協力によるフードバンク食材でのランチ提供は、利用者の生活面や経済面を支えるとともに地域の温かい支援を利用者へ伝えることにも繋がった。ミニランチ提供は和やかな雰囲気作りの役目も担った。
- ・さわ介ネットへの参加、担当者会議への出席、他県 I 型との交流、みんなねっと沖縄大会への参加等を行った。

I 型事業への取り組み

● 目標・課題

1. 個別支援の充実（全ての利用者が「ここに来て良かった」と思えるような人と場の提供）
2. サークル活動・イベントの充実（利用者の要望によるサークルの増設やイベントの提供）
3. 他機関との連携強化（他機関との連携強化による適切な支援の提供）
4. 地域住民への理解促進（地域住民との交流と障がいへの理解促進）
5. より手厚い支援のための事務作業の効率化（利用者とのかかわりをより重視するための事務作業の自動化）

● 活動報告

1. 全ての利用者が安心して過ごせるよう配慮して職員を配置し、一人一人のニーズに沿った支援を心がけた。
2. 買い物サークル、金銭管理教室、マッサージを新規で始めたり、おやつサークル、スポーツサークルを再開させるなど充実した活動を行った。今期は2度ドームスーパーボックスの招待をいただき良い思い出となった。
3. 担当者会議に参加したり、基幹や計画、他事業所とも綿密に連絡を取り合い、より細やかな支援に努めた。また、宮崎県や佐賀県の I 型との交流もあり、お互いに情報交換を行った。
4. 地域の方にはつばめ祭りやランチ作りへのご協力を通して、障がいをご理解いただいている。
5. 手作業で行っていた部分の事務を自動化することで効率化を図った。（別紙参照）

その他

● 実習の受入

国際医療福祉大学から計4名の実習生を受入れた。

● 職員研修

- ・さわ介ネットや保健所連絡会、精神障がい者地域移行支援部会に参加し、支援の向上に努めた。
- ・実習指導者、相談支援従事者研修、SST、ストレスチェック実施者研修などに参加し、スキルアップを図った。

● 居住サポート事業

- ・令和元年度は利用者19名の居住サポートを行った。

● 職場環境の改善

- ・職員のシフトを見直し、これまで曖昧だった休憩時間を設定した。
- ・古い書類や作品を整理し、書棚や飾棚などを片づけたり、敷地内の粗大ゴミを撤去するなど美化に努めた。
- ・職員同士のコミュニケーションを大切にし、職員のメンタルについてもお互い配慮する環境づくりに努めた。

● I 型の資金不足解消のための取り組み

- ・以前から問題となっている I 型の資金不足について、解消のために以下の取り組みを行っている。
 - ① 人員配置・シフトの見直し・作業効率化
 - ② 事業所の移転について、物件の見学、古屋空家調査連絡会への相談
 - ③ 職員の就業時間調整のため、月1回の臨時休館及び15時閉館の設定
 - ④ 地域ボランティアによる食事作りやサークル活動

● その他

- ・災害に備え防災計画を作り直し、登録利用者名簿を改訂した。利用者各々にも避難場所を確認してもらっている。

▶ 令和元年度登録者数 149人（前年度 145人）

▶ 月別来所者数・電話相談件数

1日平均(人/日)

来所者数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
H30年度	29.4	31.7	30.3	33.3	31.7	29.6	35.2	32.3	32.8	29.8	32.2	30.9	31.6
R1年度	32.1	33.7	32.4	32.9	32.6	30.1	38.4	34.4	32.3	31.5	27.7	27.8	32.2

1日平均(件/日)

電話相談	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
H30年度	21.5	18.8	17.0	15.5	17.9	19.0	18.0	16.4	16.1	19.5	20.0	19.6	18.3
R1年度	23.4	21.6	19.5	27.0	30.3	25.0	24.6	25.5	25.1	26.9	22.4	24.0	24.6